

お得意様各位

安曇川町田中 8 3 6 平井肥料店  
電話 0 7 4 0 - 3 2 - 0 1 2 6

住友肥料「楽一」について

長年住友肥料の一発肥料「スーパーSRコート」をお使い頂き、幸い好評を頂いておりますが、これまでは補完的に穂肥に「スミショート」を入れて貰っていました。



この「SRコート」に「スミショート」を組み合わせた肥料が、**世界初の倒伏軽減剤入り、究極の基肥一発肥料**の「楽一」です。コシヒカリ等の長稈性良食味米品種の生育に合わせ、複数の被覆肥料を組合せて最適な肥効に配合してあります。

これまでの基肥一発肥料とは違い、幼穂形成期の肥効を高めながら、稈長の伸びを抑制することで、より安定した作柄と品質の向上を目指した、革新的な基肥一発肥料なのです。写真は、上古賀のお得意先で使って頂いたコシヒカリ。9月10日に撮影しましたが、収量は9俵を超えたそうです。

「超遅植コシヒカリ」について

地球温暖化に伴い、35度を超える猛暑が続くようになって、全国的に年々米質の低下が酷くなって来ました。中でも真ん中に琵琶湖のある滋賀県では、日本一の湖が湯たんぽの様になって、夏場の夜温が下がらないという悪条件が重なります。これを避けるには、高温障害を受けにくい品種に変えるか、作付け時期を遅くして出穂を少しでも遅らせるしか方法はありません。我が家では平成13年からコシヒカリの超遅植に取り組んで来ました。



5月の連休明けに播種し、田植えを始めるのは6月中旬。最初に植えたコシヒカリの出穂は8月15日頃で、9月に入って4度の土砂降りにも倒伏せず、刈り取りは9月27日でした。

それでも反収は9俵を超えましたが、7月16日に植えた最後の苗代跡地では、流石に6俵ほどしか穫れませんでした。

しかしながら、山形県庄内町で行われた「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」では、出品された438点中、上位2割の中に入り、審査員の中には「うまいです！毎日でも食べたい」と評価して下さった方もあり、このやり方に自信を深めています。